

海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録
(令和4年度 第3回)

- 1 **日時** 令和5年2月7日(火) 9:45~12:00
- 2 **場所** 海老名市立有馬小学校 校長室
- 3 **出席委員** 山口慎二委員長、古郡 宗正委員、村山 紀行委員、奥谷 婦貴子委員
二見 隆江委員、遠藤 一義校長、前田 潤子教頭

4 会議の内容

(1) 委員長挨拶

(2) 学校長挨拶

(3) 授業参観

業間の全校縄跳び運動の様子もあわせて参観

(4) 報告

コミュニティスクール連絡会(2月4日実施)について(山口委員長)

山口委員長:各校の課題を共有した。有馬小学校の課題は、児童数が少ないこと。

地域と学校がどうつながっていくか。お互いに課題を共有し、地域は「やってあげる」ではなく「学校を含めて地域」と考えることが大切。

校長:自治会と学校をつなぐパイプ役を自治会の青健連が担うのはどうか。

二見委員:有馬地区の青健連は低迷している。

山口委員:大谷地区と有馬地区の青健連が杉久保で重なっている。

二見委員:自治会の副会長ならば2年間連携できるのではないか。

古郡委員:子どもを健全に育てていくために自治会の仕事の見直しが必要。

校長:自治会の組織の中の学校になっていくと教育長の言葉にあった。コミスクの運営者、自治会の運営者が異なる難しさがある。

二見委員:PTAの在り方も様々で統一は難しい。今泉小のPTAの形態が変わるようだ。有馬地区に応じた地域性を維持していくことが大切。困りごとを学校がどこに発信していくか。

校長:上今泉の秋祭り、子どもがたくさん参加していた。

古郡委員:子どもも大人も参画できる宗教色を除いたおまつりが共同でできるとよい。

(5) 協議

① 第二回学校運営協議会後の報告（遠藤校長）

校長：令和5年度も継続したい活動と、修正しながら継続していきたい活動について。特に昔あそびは長寿会の方々のためにも継続していきたい。新規、再開したい活動について。ゲストティーチャーを招く場の拡大、保育園幼稚園との交流の再開など。村山委員にイラストクラブのゲストティーチャーを依頼した。

古郡委員：中学校の部活も外部人材を取り入れている。小学校のクラブも指導者を探すとよい。

校長：みなさまに人材をご紹介いただきたい。

② 第三回諮問内容（遠藤校長）

「令和5年度有馬小学校経営方針（案）検討」

校長：学校教育目標の意味について職員にも説明していく。通級、特別支援級、別室登校等の支援教育の充実を図りたい。

二見委員：学校に足向けづらい子へのアプローチがありがたい。通常級にいるボーダー児への対応には難しさがある。

校長：令和5年度はステップルームの環境整備をしていく。教材も揃えていく。児童の教室復帰のため、支援員が週に3日のところ、週に5日対応できる体制を目指したい。令和4年度に卒業できた子もいる。行かなくてもいい選択肢としてのステップルームに。

二見委員：結果的に勉強ができなくてもよい。でも、それは最終的なことで、最初に言う言葉ではない。

奥谷委員：手厚い対応、マンツーマンの対応がありがたい。

山口委員長：学校とのつながりが切れると社会とのつながりがなくなってしまう。社会に出るときに学校での経験が必要だ。

古郡委員：人間関係を学ぶ場として、学校のウエイトが大きくなった。学習と人間関係の2つの柱で進めないといけない。人も予算も足りないが。教職員の仕事に報告書などの必要のない仕事がたくさんあるのではないか。業務が増えているが、子どもの指導に焦点化して捨てていい仕事があるのではないか。

校長：教師が笑顔でいる学校は子どもも笑顔でいる。

山口委員長：次回、小学校経営方針を承認することになるが、承認とは、可否ではない。課題や目標を共有していく。

校長：様々なご意見をありがとうございました。令和5年度も変わらぬご支援をお願いしたい。